

3月20日(水・祝)、教区の日礼拝が主教座聖堂三原聖ペテロ聖パウロ教会にて行われた。今回は宣教70周年記念として昨年から行われてきた様々な取り組みの締めくくりとしての礼拝でもあったため、日本聖公会から武藤謙一首座主教・九州教区主教、矢萩新一総主事、大韓聖公会からはイ・ギヨンホ主教(ソウル教区)、パク・ドンシン主教(釜山教区)、キム・ホーク主教(大田教区)、チェ・ジュンギ司祭(大韓聖公会教務院長)も来沖し、参列してください。

沖縄教区 教区の日礼拝



説教者は、1年間70周年記念行事実行委員会の委員長を担われた戸塚鉄也司祭。72人を派遣したルカによる福音書の箇所を用い、聖職者の役目はイエスの弟子である信徒を養育する。信徒は最高のプレーヤー(働き手)を目指しましょうと話された。また、無名の人間が心を合わせて祈る時、そこに神の国が現れる。神の国はこの場所も家庭も海を越えて世界をも変えていく。神様はすばらしい働きを

してくださる。神様は私たちに罪から解放してください。このことを信じ、また福音の原点に立ち返り歩んでいきましょう。と力強いメッセージを送られた。この日のために、大韓聖公会主教様方のお連れ合い、大

受洗25周年 おめでとうございます

- 三原聖ペテロ聖パウロ教会
- イサク 宮城 信仁
- リベカ 宮城 紀子
- インマヌエル 金城幸之節
- ダニエル 大湾 朝晃
- 首里聖アンデレ教会
- 使徒ヨハネ 翁長 良勝
- 島袋諸聖徒教会
- アンナ 佐久川正美

慈悲深い父よ、あなたは私の僕に受洗25周年を迎える恵みを現してください。どうかこの恵みを深く感謝し、常に喜んで主に仕え、み名の栄光を現すことができますように。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

今回の運営に際して、三原教会婦人会、ナザレ幼稚園、聖マルコ保育園の職員の方々のご奉仕くださいました。また聖マタイ幼稚園の松浦拓海さんと西田有希奈さんは、前回に続き、一日中いろいろな角度から写真撮影をしてくださいました。多くのお働きに感謝いたします。



憲法記念日に寄せて

ライターボックス—主教タレテ 上原榮正

5月3日は憲法記念日です。沖縄は戦後から1972年の復帰まで無憲法状態でした。当時は日本でもアメリカでも国連の信託統治でもなく、高等弁務官が統治していました。琉球列島高等弁務官は米軍の陸、海、空、海兵隊四軍司令官で、且つ行政、司法、立法の最高権力者で「沖縄の帝王」と呼ばれました。国も憲法も持たない米軍統治下の琉球では人命、人権軽視・無視の事件、事故が多発しました。明治になり琉球王国は日本に併合され沖縄県となります。江戸時代、各藩に分かれ争っていた日本は、西欧列強に対抗するため国民統合が必要でした。「古事記」、「日本書紀」などの神話を用いた偽の歴史を教え天皇を中心とする国造りをしました。大日本帝国憲法、天皇を現人神とする国家神道、及び教育勅語により天皇中心とする国家が造られました。大和の歴史から外れた琉球、アイヌ、朝鮮、台湾の人が差別や偏見を受けたのは当然だったと言えます。昭和になると「八紘一宇の精神」の下、天皇を中心とした大東亜共栄圏策定のため、長期の戦争が行なわれました。アジア、太平洋諸国の人々に甚大な被害を与えました。最後が沖縄戦と広島、長崎の原爆です。沖縄戦では4人に1人の住民が犠牲となりました。戦場での銃弾や爆撃死だけでなく、日本軍により虐殺された人も少なくありません。戦前の天皇制国家、軍国主義の反省から日本国憲法が定められました。天皇主権から国民主権へ、軍国主義から平和主義へと変わりました。戦争を放棄し、命を尊び人権を最大限に守る平和憲法、民主憲法となりました。その実現のため、軍隊も交戦権を持たないなど他国にも見られない素晴らしい憲法となりました。琉球は日本国憲法下に入れば、住民の人命も人権も尊重され、米軍基地も返還されると信じ復帰を選びました。でも戦後約80年、米軍は常駐し、歴史教科書は書き替えられ、沖縄戦の犠牲や被害も美談となりつつあります。誤った歴史観は誤った道へと導きます。国防等を理由に憲法改憲の声が響きます。私たちは、「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ14:6) 主の道を歩みましょう。



トップバッターの「教役者会」は開始直前、唯一の練習だけでも関わらず美しいハーモニーを披露。「さすが!!」と感嘆の声があがりました。

昼食を挟んで、午後の時間は「ワクワク・イキイキ・ニコニコの会」と称して、「教役者会」「聖保連」「青少年」「GFS」「男子会」「婦人会」の6団体による出し物を楽しんだ。どの団体も、普段は忙しかつ練習で集まることが難しかったため、練習の仕方を工夫し



「2つの幼稚園と5つの保育園」の職員による歌声。普段、優しく子ども達と接する先生方の笑顔と歌声は癒し効果抜群でした。

て当日の出演に至ったようである。それぞれの精一杯の発表にみんなが「ワクワク・イキイキ・ニコニコ」となった。最後に、1月に天に召された山野繁子司祭の魂の平安を祈り、また世界の平和を願い、全員で聖歌423番「沖繩の磯に」を歌って会を閉じた。



「GFS」は「今回は参加者がいなくて…」と悩みながらも与那嶺あさ子さんと知花なおみさんが代表して「島人ぬ宝」を三線で演奏。会場みんなで声高らかに歌いました。



未来を担う「青少年」若さ溢れる歌声に教区の希望を感じました。



もう一枚…
角度を変えて



各教会で少数ながらも重要な役割を担っている「男子会」(ゞ子、ではないけど…)。唯一、事前練習を行い、そこでの録音を元に練習に励みました。優しく、力強い歌声に拍手喝采。

コロナ禍から通常に戻つつある今、「みんな、何かしたい」という思いがあふれていたような気がした。その思いを今後につなげていけたらと思う。

大トリは、写真からもパワーを感じる「婦人会」。練習用動画を作成し、LINEで拡散。ぶっつけ本番ながらも、息披露。というよりも、聴衆も巻き込み、みんなで歌い踊り、礼拝堂は熱気に包まれました。





主教座聖堂 三原聖ペテロ聖パウロ教会
☆仲本澄子さん（主教様右隣）の堅信式がありました。また聖歌隊が復活。美しいハーモニーが響きわたりました。

HAPPY EASTER

3月31日の復活日礼拝、またはその前後に各教会にて集合写真を撮影して頂きました。復活日には、久しぶりの顔や付属施設職員の出席もあり、どの教会にもぎやかに迎えたようです。



名護聖ヨハネ教会



首里聖アンデレ教会

☆3月17日主教巡杖日、池原恵さん（主教様右隣）の堅信式の際に撮影しました。



小禄聖マタイ・豊見城聖マルコ教会
☆聖マタイ教会にて合同礼拝を行いました。



石垣キリスト教会



宮古聖ヤコブ教会



北谷諸魂教会 ☆礼拝にはなんと 89 名が出席。ブラスアンサンブルも編成され、華やかな礼拝となりました。



島袋諸聖徒教会



愛楽園祈りの家・屋我地聖ルカ教会
☆3月24日、主日礼拝で説教をしてくださったイ・ギョンホ主教ご夫妻（ソウル教区）と共に撮影しました。

2017年、上原主教ご夫妻が伊藤八十二司祭生誕130周年記念行事参加のためブラジルを訪問した際に玉置執事も同行。ある町で上原主教が行った日本語の聖餐式に感激した現地の人々の姿を見た時に「飼い主の無い羊を養いなさい」と神さまから言われた気がして、何かしなければとネットワークを築くことを始める。散らばっている人たちがつながり、一人ではないと感じてもらうために機関紙も

発行。またコロナ禍をきっかけに毎主日には説教、特祷、聖歌、月に1度は日本聖公会の主教様方の説教動画を送っているそうである。日本聖公会においては退職の年齢を超えているが、数年前にブラジルで執事となり、今なお精力的に活動なさっている玉置執事。自身のこれまでの歩みを振り返り、「神様は私たちが生まれる前から目的を持って、私たちを選び命を与えてくださった。自分の目ではなく、神様にとって何がよいことを考え判断した時に、神さまはちゃんと道を示してください。正しい決断をした時には心に平安と喜びがある。自分の弱さを認め、力を抜いてゆだねることで、神さまは私たちのうちで働いてくださる。必要なことはちゃんと備えてくださる。」と話された。神様に全てを委ねイキイキと歩まれる玉置執事の言葉の一つ一つが、力強く胸に響いた講演会であった。

**玉置幸子執事
ブラジル宣教
講演会**

堅信おめでとう
三原聖ペテロ聖パウロ教会
2024年3月31日(日)
ハンナ 仲本 澄子

能登半島地震 ボランティア参加報告

4月2日から5日の日程で、名嘉智也さんが、能登半島地震ボランティアに参加しました。ボランティア募集について各教会にお知らせしたのが3月末にも関わらず、お知らせを聞いた名嘉さんはすぐに参加を決め、数日のうちに能登へ渡りました。「たまたま時期がぴったりに合った。」とのこと。神様のお導きに感謝です。

現地には足を踏み入れ、被災状況を目にして、ニュース等で見聞きしていたよりも深刻な状況で、予想以上に復興が進んでいなかったことに驚きました。活動場所の珠洲市へは、宿泊先の志水町から車で片道約3時間。朝8時に宿泊所を出発しても到着はお昼前。往復の移動だけで6時間以上かかるため、実質の作業時間は4時間程度。珠洲市での宿泊にも限界があるので、どうしても離れた所からの通いとなってしまう。そのことに復興作業の難しさを感じました。



鵜飼漁港周辺の様子

今回は、教会の信徒さん宅での作業でした。自宅は住める状況ではないため、現在も避難所で生活をしているようです。内容はニワトリ小屋の囲いの修理や薪小屋の片付け等。かなりの量の崩れた薪を外に運び出し、積み直す作業だけでも1日がかりでした。励ます言葉がみつからない程のひどい状況にある中でもボランティアに訪れた私たちが温かく歓迎してくださる短い期間でしたが行って良かったと感じました。復興の道筋が見えず、気持ちを立て直すことも難しい状況の中で「人とのつながりが一番の希望である。」と話された言葉

に胸が熱くなりました。震災から4か月たった今の状況からしても、復興までにはかなりの時間を要するでしょう。今後も息の長い支援が必要であると感じました。今回の移動の足となったワゴン車は、東日本大震災の際に、沖縄教区が送ったハイエースであったことに驚きました。東北から富山にやってきたその車を私も運転できたこと、また支援の輪が広がっていることをとても嬉しく思いました。

豊見城聖マルコ教会
ヨブ 名嘉 智也

愛楽園祈りの家教会献堂70周年記念礼拝

1953年11月1日に礼拝堂が献堂され70年。4月12日に記念礼拝が行われた。当初は昨年11月に行う予定であったが、コロナ禍から続く入園規制により延期となっていた。今回は園側の配慮もあり、縮小した形ではあったが入園者信徒、園の関係者、教区内からの参加者約60名が集い礼拝を行うことができた。現在信徒23名の半数となる12名が礼拝に参加して、共に祈りを捧げたことは大きな喜びであった。



第6回常置委員会報告

日時…2024年3月12日(火)

場所…教区センター会議室

I. 諸報告 (教務局会より)

- ① 宣教師報告
 - ・ 3月2日(土) 青少年活動の会議をNOONにて開催。教区の日割について確認。16日に作業を行う予定。
 - ・ 2月26、27日の各教区人権担当者会に咸司祭が参加。後日報告を受ける予定。
- ② 総務部報告
 - ・ 牧師園長の宗教法人側の出張・研修のための長期休暇について話し合った。

③ 財政部報告

・ 3月5日(火) 財政部会開催。2月の資産運用状況と収支の報告。

・ 各部、委員会活動費内の交通費を次年度から物件費内の交通費に一本化することについて教務局で承認。

④ その他

・ 教区の日離島参加者補助の予算額を例年通りに修正。

II. 主教連絡

① 4月12日(金) 愛楽園祈りの家教会献堂70周年記念の祈りを行う。

② 4月8日(木) 15日にブラジル聖公会の玉置幸子執事が訪沖予定。講演会を依頼する。

III. 協議事項

① 一般会計、特別会計の基金の額および配分の調整について。財政部案を承認した。基金の内訳は継続して表記する。

～ 召 天 ～

◆ 3月29日(金)

ペテロ 高良 憲吉

(愛楽園祈りの家教会)

十魂の平安を

お祈りいたします。

